

第3回トラック輸送における取引環境・労働時間改善長崎県地方協議会 議事概要

1. 日時

平成28年3月15日（火） 14時00分～16時30分

2. 場所

長崎県トラック協会 研修会館

3. 出席者

宮原 和明 長崎総合科学大学 名誉教授
山田 誠治 長崎県中小企業団体中央会 事務局長
原田 庸一郎 三菱重工業（株）長崎造船所 所長代理
内田 勇 長崎県農業協同組合中央会 専務理事
牛島 徳人 日本ハム（株）諫早プラント 課長
川見 義昭 （株）エレナ 総務部長
松本 一秀 日本通運（株）長崎支店 支店長
出口 義男 ヤマト運輸（株）長崎主管支店 課長
鈴木 正直 タカラ長運（株） 代表取締役
井石 八千代 （株）井石 代表取締役
佐藤 正文 長崎雲仙運輸（有） 代表取締役
馬場 邦彦 幸運トラック（株） 代表取締役
松本 由也 （株）ミラージュ 常務取締役
塚本 政治 （公社）長崎県トラック協会 会長
村崎 かおり 長崎県産業労働部 参事
牧山 秀士 厚生労働省長崎労働局 労働基準部長
竹田 浩三 国土交通省九州運輸局 局長
藤江 英俊 国土交通省九州運輸局長崎運輸支局 次長

なお、小野委員（流通経済大学物流科学研究所）、松永委員（長崎県商工会議所連合会）、若松委員（長崎県漁業協同組合連合会）は、所要のため欠席。

4. 議題

- (1) トラック輸送状況の実態調査結果について
- (2) 荷主ヒアリングの結果概要について
- (3) パイロット事業について

- (4) 地方協議会の今後の進め方について
- (5) その他

5. 資料

- 資料1 トラック輸送状況の実態調査結果（全国版）概要
- 資料2 トラック輸送状況の実態調査結果（全国版）
- 資料3 トラック輸送事業の実態調査結果（長崎県版）概要
- 資料4 トラック輸送状況の実態調査結果（長崎県版）
- 資料5 荷主ヒアリング結果概要
- 資料6 パイロット事業
- 資料7 パイロット事業の選定
- 資料8 地方協議会の今後の進め方

6. 議題1の説明（トラック協会）

7. 議題1に関する意見・質問

（鈴木委員）

資料3の8ページをみると、検品が付帯作業となっているが、本来、検品というものは運送事業者と荷主側が双方での確認作業のことを言うと思うが、ここでの検品とは何を指すのか。本来、運送事業者がすべきことではないものが含まれているのか。

（事務局：トラック協会）

そのとおりである。ここでいう検品とは、通常の品目の状態の確認や数の確認などに加えて、納品や棚卸しもそうだが、細かく言えばスーパーなどでは、鍵をあけてパレットを持ち込んで、卸して報告するというような事も行われており、このようなものを付帯作業としている。

8. 議題2の説明（事務局：九州運輸局）

9. 議題2に関する意見・質問

（松本委員）

我々トラック業者としても、鉄道も取扱いをさせて頂いているが、むしろ、生鮮品の場合、鮮度や市場のせりに間に合わないことがあり、長時間であっても小回りのきくトラックでの輸送が大半でないかと考える。

（塚本委員）

乗務員不足については、われわれも真剣に考えている。荷主に対する到着時間の問題や労働時間の改善を考えた場合、フェリーの使用を考えている。長崎方面からフェリーを使用するとなると、阪九フェリーなどになると思うが、いざ予約しようとする、予約がいっぱいで、一見の客は難しいと回答された。フェリー会社からは予約している事業者にお願いしてはどうかと言われてしまう。拘束時間の問題などでフェリー使用が増えたのは事実である。非常に長崎の業者としては困っている。

(鈴木委員)

今回の事例ではどのくらい労働時間が減ったのか。フェリー使用の場合とトラックでのコストの問題はどうか。そこがトータルでうまくいかないといけない。

(事務局：九州運輸局)

今回、荷主ヒアリングという形で荷主に話を伺った。その中で、鉄道利用による改善と発着荷主を交えた話合いを持ったことによる改善の取り組みと改善効果を聞くことができた。また、農産物は品目別に異なる問題を抱えているといった話も聞くことが出来た。発着荷主との話し合いにより市場での待機時間が無くなったということで、改善事例としてあげている。下請けの運送事業者の運転手の労働時間については、運送事業者へ確認できていないのでわからない。

(鈴木委員)

そこがわからないと、われわれは判断できない。

(出口委員)

今回の好事例が、長崎の事業者にあてはまるかは疑問である。

(宮原座長)

行政側としても、今後はもう少し踏み込んだ情報をお願いしたい。

10. 議題3の説明（九州運輸局）（長崎労働局）

11. 議題3に関する質問・意見

(山口委員)

パイロット事業について、今後、全国で20集団、2年間で100集団となっているが、長崎県でどの集団を選ぶかは今から選択していくのか。

(事務局)

事務局としては、荷主の業態に応じてどれが1番マッチングするのかを含めて考えているが、相手があることなので、しっかりパイロット事業について説明をして理解をいただいた上で選定を行いたい。

(山口委員)

長崎で0件もありえるのか。

(事務局)

どうしても相手方が引き受けたくないということであれば、その可能性もあるが、事務局としてはなんとかしたいと考えている。やはりこれがないと、次年度協議会の展望がみえてこない。

(宮原座長)

長崎県で、パイロット事業が0件はありえないと考える。西のはてに位置する長崎は、運送上いろいろな問題があると思う。そのような問題を解決するためにも、事業者さんには前向きにとらえて頂きたい。

(山口委員)

是非、選定する際にお願いしたいことは、資料①②③とアンケートをとられたときに、ある程度長時間労働とか手待ち時間が長い事業者をターゲットとした取り組みを行って頂きたい。

(馬場委員)

去年の11月より関西方面へスイッチ運行を行っている。今までは、関東方面については改善基準告示の問題もあり難しいところもあったため、関西でスイッチすることにより、拘束時間を短縮することができた。関東方面については決まったドライバーが運行しているので、運賃の問題など月の給与がそれで納得いくかどうかの問題もある。また、関東、盛岡方面についてはこちらだけで営業所を出した場合、駐車場やドライバー不足の問題がある。ドライバー不足については、関東に簡易所とかアパートを借りてこちらのドライバーをある程度の期間滞在させて運行をやっている。今後は、どうしても同じ業者で関東方面、東北方面の事業者さんとの連携が必要である。関東方面、関西方面のドライバー確保は経費上なかなか難しい。車検、整備の管理費も今からどのようにするのか。また、サービスエリアのスイッチをするところの問題やETC利用での高速を途中でおりたときどうするかなど、パイロット事業の中で専門家を交えて改善につながっていけばいいと考える。

(宮原座長)

今、話にあったように九州地区と関東地区の事業者さんの地域ごとの連携が課題である。パイロット事業にこのような課題を入れ込んでもいいのか。

(事務局)

パイロット事業については、現存の荷主とそこにはいつている元請け、下請けという形になっているが、元請け下請けをどこまで広げるかは決まっていない。逆に言えば、発荷主着荷主それぞれ元請けに長崎の事業者がいて、場合によっては関東の業者がいるかもしれない。そうなるトータルで組めるような場合であればなんとかなるのかなと考える。それぞれの荷主に入っている業者さんによって若干違ってくると思う。着が遠いほど下請けの事業者は増えてくる。シンプルにまとめるのであれば元請け1社下請け1社となる。どう考えるかは、選定する集団の考え方による。

1 2. 議題4の説明(事務局：九州運輸局)

1 3. 議題4に関する質問・意見

(事務局)

先ほどパイロット事業について、選定する事業者を問題のある事業者からというような話があったが、事務局としては、荷主と運送事業者の良好な関係について土台がしっかりしている事業者で、成果が見込まれる事業者について選定を考えている。

(松本委員)

実態として改善ができないところをもっと掘り下げていただきたい。

(鈴木委員)

悪いところを狙いうちではないが、改善出来ない理由などが積みかさなって現状があると思う。そこを含めて根っこの問題からしっかりやっけていかないといけない。

(事務局：九州運輸局)

みなさんの周りで事業実態を改善しようとしているがなかなか改善ができないといった運送事業者を紹介してほしい。また、そのような情報をお願いします。

(馬場委員)

震災から5年が経過しているが、盛岡のドライバーは1人も入ってこない。東北については、仙台が中心となっているが、若いドライバーがいない。このままでは、九州、関東、東北の路線は非常に厳しくなってしまう。若いドライバーにとって魅力ある働きやすい環境を作らないといけない。

(宮原座長)

今回の実態調査の回答の中にも女性が1人もいなかった。このあたりの課題もあるのでないか。若い人達が入ってくるような環境作りが必要である。

(井石委員)

今回の実態調査の中で、ドライバー不足により輸送を断っているとあるが、その時荷主はどのような対応をしているのか。

(全ト協)

今回の調査にあたっては、事業者の後追いはしないので現状を正直に書いて欲しいとお願いして実施しているため、後追いはしていない。よって、その後の対応等については把握していない。

(宮原座長)

パイロット事業については、28年度から始まるので、そのあたりの課題をしっかりとあげてもらって取り組んで頂きたい。